

## 野菜類－根菜類－しょうが－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						紋枯病	いもち病	根茎腐敗病
1	オラクル顆粒水和剤		普	アミスルプロム	21	-	-	○
2	シトラーノフロアブル		普	1. TPN 2. 有機銅	M5、M1	○	-	-
3	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	-
4	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	○	-	-
5	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-
6	モンカットフロアブル40		普	フルトラニル	7	○	-	-
7	ユニフォーム粒剤		普	【*1】	11、4	-	○	○
8	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	-	-	○

【\*1】1. アゾキシストロピン 2. メタラキシル及びメタラキシルM

## 野菜類－根菜類－しょうが－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						クロバネキノコバエ類	アワノメイガ	ネキリムシ類	ハスモンヨトウ	ネコブセンチュウ
1	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-
2	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-
3	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	-
4	ガードベイトA	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	○	-	-
5	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	-	○	-
6	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメトリン	3A	-	○	-	-	-
7	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-
8	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-
9	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ及びインドキサカルブMP	22A	-	○	-	○	-
10	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	-	-	-	○	-
11	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	○
12	フォース粒剤	抑制	劇	テフルトリン	3A	-	-	○	-	-
13	プレバソンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリブロール	28	-	-	-	○	-

## 野菜類—みょうが(花穂)—殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						紋枯病	葉枯病	いもち病	根茎腐敗病	白絹病
1	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	-	-	-	-
2	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	○	-	-	-
3	ベンレート水和剤		普	ベンミル	1	-	-	○	-	-
4	ユニフォーム粒剤		普	【*1】	11、4	-	-	-	○	-
5	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	-	-	-	○	-
6	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	○

【\*1】1. アゾキシストロビン 2. メタラキシル及びメタラキシルM

## 野菜類—みょうが(花穂)—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						コナカイガラムシ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	アブラムシ類
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	-	-	-	-
2	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	-	○	○	-	○
3	アタブロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	-	-	○	-	-
4	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	-	-	-	○	-
5	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	-	○	-
6	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	-	○	-
7	サンマイトフロアブル		劇	ピリダベン	21A	-	-	-	○	-
8	スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	-	-	-	○	-
9	ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	○	-
10	チェス顆粒水和剤		普	ピメロジン	9B	-	-	-	-	○
11	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	○	-	-
12	マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	-	○	-
13	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	-	-	○

## 13-(42) みょうが（野菜類に登録のある農薬も使用可能）

※はなみょうが（花穂）とみょうがたけ（茎葉）は、農薬登録上「別の作物」であるため注意する。

病害虫名	防除方法	参考事項
根茎腐敗病	植付前 1. 無病地へ新植する。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 生育期 雨よけ被覆、遮光被覆の防除効果が高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本病は土壌伝染性である。</li> <li>・新植する場合には、無病の地下茎株を用いる。</li> <li>・ほ場の高温多湿条件で発病が拡大する。</li> <li>・発病ほ場で使用した農機具、長靴などは必ず洗浄し、伝染を防ぐ。</li> </ul>
葉枯病	植付前 排水不良の畑には、作付けしない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨や暴風雨などは病原菌の飛散を助長し、本病の発病を助長する。</li> </ul>

### 農薬を使用する上での注意

※「みょうが（花穂）」と「みょうが（茎葉）」は収穫する部分が異なるため、農薬の使用上「別の作物」として扱われる。

表1 適用農作物の区分

	農薬登録	
大作物群	野菜類	
中作物群	—	
作物名	みょうが（花穂）	みょうが（茎葉）
作物名に含まれる別名、 地方名、品種名等の例	はなみょうが	みょうがたけ
備考	花穂を収穫するもの	軟化させた茎葉を収穫するもの

## 野菜類－葉菜類－ヒユ科葉菜類－ほうれんそう－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						べと病	立枯病	萎凋病	苗立枯病 (リゾクトニア菌)
1	アリエッティ水和剤		普	ホセチル	P7	○	-	-	-
2	タチガレン液剤		普	ヒドロキシイソキサゾール	32	-	○	-	-
3	ピシロックフロアブル		普	ピカルブトラゾクス	U17	○	-	-	-
4	フェスティバル水和剤		普	ジメトモルフ	40	○	-	-	-
5	ベンレート水和剤		普	ベンミル	1	-	-	○	-
6	ユニフォーム粒剤		普	【*1】	11、4	○	-	-	-
7	ヨネボン水和剤		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	○	-	-	-
8	ライメイフロアブル		普	アミスルプロム	21	○	-	-	-
9	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	○	-	-	-
10	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	○
11	レーバスフロアブル		普	マンジプロバミド	40	○	-	-	-

【\*1】1. アゾキシストロピン 2. メタラキシル及びメタラキシルM

野菜類-葉菜類-ヒユ科葉菜類-ほうれんそう-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																	
						シロオビノメイガ	ハスモンヨトウ	アブラムシ類	ミナミキイロアザミウマ	ヨトウムシ	ハクサイダニ	アザミウマ類	ホウレンソウケナガコナダニ	ケナガコナダニ類	ネキリムシ類	アシグロハモグリバエ	タネバエ	ハモグリバエ類	ネコブセンチュウ				
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアトキサム	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアトキサム	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アディオソル乳剤	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	アニキ乳剤		普	レビメクチン	6	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	ガードベイトA	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
14	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
15	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	コテツベイト		普	クロルフェナピル	13	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
20	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
22	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
23	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	ネコナカットフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
26	パダシSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
27	ファインセーブフロアブル	抑制	劇	フロメトキン	34	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28	フォース粒剤	抑制	劇	テフルトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
29	プレバソソフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリブロール	28	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
32	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33	ラグビーMC粒剤		普	カズサホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
34	リーフガード顆粒水和剤	抑制	劇	チオシクラム	14	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-

## 13-(43) ほうれんそう（野菜類、葉菜類、ヒユ科葉菜類に登録のある農薬も使用可能）

病虫害名	防除方法	参考事項
立枯病 株腐病 根腐病	播種前 1. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 2. 連作を避ける。	・夏まきの作型で発生が多い。 立枯病（ピシウム菌） 株腐病（リゾクトニア菌） 根腐病（アフアナマイセス菌）
萎凋病	播種前 1. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 2. 窒素過多で発病しやすいので適正な肥培管理をする。 3. 連作を避ける。	・生育初期の発病では、苗立枯症状を呈し欠株となる。 ・地温の高い条件下で多く発病し、初夏から初秋に被害が大きい。
べと病	播種前 1. 有機物を施用して土づくりに努め、ほ場の排水性をよくする。窒素過多で発生しやすいので適正な施肥量とする。 2. 抵抗性品種を選定して栽培する。 播種時 適用薬剤を使用する。 生育期 1. 適正な株間と条間を保ち、密植・過繁茂を防ぐ。 2. 露地のトンネル被覆栽培では、通気性のよい資材を選択する。 3. 施設栽培では、換気をよくして過剰なかん水を避け、湿度を下げる管理を行う。 4. 生育初期の防除を徹底し、適用薬剤の散布は葉裏によくかかるよう丁寧に行う。 収穫後 収穫残さは、なるべくほ場外に持ち出す。	・10℃前後の曇天で多湿時に発病が多い。 ・べと病レースに対する主な抵抗性品種（別表参照）
モザイク病 (CMV)	播種前 ほ場周辺の越年罹病作物や雑草を除去する。 生育期 1. 施設栽培では、ハウス開口部を防虫ネットで被覆し、アブラムシ類の侵入を防ぐ。 2. 発病株は早期に抜き取り処分する。 3. アブラムシ類の防除を行う。 （野菜・花きのウイルス病防除対策の項、防虫ネットによる防除の項参照）	・アブラムシ類は多くの植物に寄生し、降雨が少ないと発生が多くなる。
センチュウ類	播種前 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） （ネコブセンチュウの防除対策の項参照）	・前作に発病がみられていると、多発する可能性がある。
タネバエ	播種前 有機質資材は、播種の1か月以上前に施用しておく。 播種時 適用薬剤を使用する。	

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
ホウレンソウ ケナガコナダニ	播種前 1. 夏期に太陽熱消毒を行う。 (太陽熱消毒法による土壌病害虫の防除の項参照) 2. 未熟たい肥の施用は避ける。 3. 適用薬剤を使用する。 生育期 1. 未展開葉に寄生しているので、適用薬剤を散布する場合には丁寧に行う。 2. 薬剤防除は、生育初期(本葉2葉期と4葉期)に重点的に行う。 収穫後 残さが翌年の発生源になるので、ほ場外へ持ち出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15~25℃の多湿条件でよく増殖し、秋冬~春に多く発生する。</li> <li>・菜種粕、野菜残さ、糸状菌(未熟たい肥により増殖)、土壌表面の藻類などをエサとする。</li> <li>・主に本葉2~4葉期の加害による被害が大きい。</li> <li>・4葉期以降に被害が発生してからの防除は手遅れとなる。</li> </ul>
シロオビノメイガ	播種前 1. ほ場周辺の雑草(特にヒユ科・スベリヒユ科)を除去する。 2. 防虫ネットを展張して成虫の飛来を防ぐ。 生育期 1. 初めは局所的に発生することが多いので早期発見に努め、適期防除を行う。 2. 適用薬剤を散布する場合は、幼虫のいる中心葉および葉裏に薬剤がかかるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月から発生がみられ9月以降被害が急増する。</li> <li>・幼虫は葉を曲げて糸を張り、綴った葉の内部に生息している。</li> </ul>
アシグロハモグリバエ	播種前 1. ほ場周辺の雑草を除去する。 2. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。(防虫ネットによる防除の項参照) 収穫後 1. 高温期の施設栽培では、栽培終了時に蒸し込み処理を行う。 2. 被害株はほ場外に持ち出し処分する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウの他に、多くの植物に寄生する。</li> <li>・施設内で越冬することが確認されている。</li> </ul>
ハクサイダニ	播種前 1. ほ場周囲の雑草でも繁殖するため、雑草防除を行う。 2. 夏季にポリ被覆により太陽熱消毒をする。 (太陽熱消毒法による土壌病害虫の防除の項参照) 収穫後 植物残さは放置せず、直ちに鋤込み処分する。 (ハクサイダニの防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高湿度状態だと、45℃3日で休眠卵は死滅する。</li> <li>・本虫は休眠卵で越冬し、16℃以下になると孵化を始め、第1世代成虫(休眠卵から孵化したもの)が11月頃から発生し、春先まで被害が見られる。</li> <li>・暖冬の年は発生量が多く被害も大きくなる。</li> <li>・行動はきわめてすばやく、わずかな振動で葉陰や株もとに隠れる。</li> </ul>

(別表)ホウレンソウベと病抵抗性品種一覧表(各種苗会社発表データより)

品種名	レース																			メーカー名	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
オシリス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○						サカタ のタネ
クロノス	○	○	○	○	○	○	○		○				○		○	○			○		
ジャスティス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	
トリトン	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	
プログレス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	
ミラージュ	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○		○	○			○		
ハイドン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○			○		
ドンキー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○			○		
ゴードン	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	
ピンドン	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	
スーパーセーブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
晩抽サンホープ	○	○	○	○	○			○	○		○	○		○	○						カネコ 種苗
ハイサンピア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○					
金の夏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○			○		ナント 種苗
スクープ	○	○	○	○											○						
早一郎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○					朝日 アグリア
スーパースター	○	○	○	○	○			○	○		○			○							
アレグレット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					トーホク
タフスカイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○	タキイ 種苗
吉兵衛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○	
伸兵衛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○	
福兵衛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○	
寒兵衛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
徳兵衛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
寒味・極	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						トキタ 種苗
じっくり朝霧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○						渡辺 採種場
雪美菜 02	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								雪印種苗

※種苗会社の品種資料により、○は抵抗性あり、空欄は抵抗性なしまたは記載なし。



## 13-(44) しゅんぎく

(野菜類、葉菜類、レタス類以外のきく科葉菜類に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
炭疽病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 窒素過多で発病しやすいので多肥にしない。 生育期 ほ場の排水性と通気を確保し、過剰なかん水をしていない。	・比較的気温が高く、多湿条件の時に発病しやすい。
べと病	生育期 ほ場の排水、施設内の通気をはかり密植栽培を避ける。	・平均気温が20℃以下になると発病しやすい。
菌核病	生育期 1. 施設を閉め切る時期に発病が多くなるので、天気の良い日はサイドを開けるなど湿度を下げる。 2. 被害株は抜き取る。 収穫後 収穫残さはほ場外へ持ち出し処分する。	・種子伝染し、発病適温は20℃前後で、春と秋に発病しやすく、多湿条件で発病が助長される。
ハモグリバエ類	生育期 1. 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。 (防虫ネットによる防除の項参照) 2. 被害株はほ場外に持ち出し処分する。 収穫後 施設栽培では、栽培終了時に密閉して蒸し込み処理を行う。	・黄色粘着板を設置して誘殺するとともに、発生状況を把握する。
ハクサイダニ	播種・定植前 1. 多くの植物に寄生し、周辺雑草にも生息するので雑草防除をする。 2. 夏季にポリ被覆により太陽熱消毒をする。 (太陽熱消毒法による土壌病害虫の防除の項参照) 生育期 被害株は放置せず、ハウス外へ持ち出し埋設処理する。 収穫後 収穫残さは放置せず、直ちにすき込み処分する。 (ハクサイダニの防除対策の項参照)	・高湿状態だと、45℃3日で休眠卵は死滅する。 ・本虫は休眠卵で越冬し、16℃以下になると孵化を始め、第1世代成虫(休眠卵から孵化したもの)が11月頃から発生し、春先まで被害が見られる。 ・暖冬の年は発生量が多く被害も大きくなる。 ・行動はきわめてすばやく、わずかな振動で葉陰や株もとに隠れる。

## 野菜類－葉菜類－せり科葉菜類－みつば－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						灰色かび病	べと病	菌核病	立枯病
1	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	-	-	-
2	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	○	-	-
3	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	○	-
4	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	-	-	-	○
5	リゾレックス粉剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	○

## 野菜類－葉菜類－せり科葉菜類－みつば－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。  
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						アブラムシ類	キアゲハ	ハスモンヨトウ	ハダニ類	ヨトウムシ
1	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-
2	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	-	○	○	○	○
3	ウララDF		普	フロニカミド	29	○	-	-	-	-
4	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	○	○	○	-
5	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	○	-	-
6	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	-	-	○	-	-
7	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-